

## 凡 例

- ① ここでいう「製鉄文化」目次とは、雑誌『製鉄文化』についての詳細な分析・検討を行っていくことを目的に、北九州文化運動研究会が、主に北九州地域を中心とした文学館、書籍店（古書店）などから収集した『製鉄文化』の各号に掲載されている作品を、②以降で示した方針にしたがって整理し直したものである。したがって、実物の各号に掲載されている「目次」そのものの再現ではないことをお断りしておきたい。
- ② 1949年4月（創刊号）から2002年3月（179号）までに発行された『製鉄文化』各号中の作品名、作者名、ページ数等を、それぞれ「随筆」、「短文芸」、「写真類」、「創作」、「編集後記」、「その他」の6つの項目に分けて表記している。
- ③ 「随筆」欄は、随筆の他に評論、紀行、記録などを含むものとしている。特集名はゴシック体で示し、特集の中の作品名については段落を下げて表記している。
- ④ 「短文芸」欄は、「詩」、「短歌」、「俳句」、「川柳」、「漢詩」に分けて表記している。作者名の下にカッコ付の数字（（2）や（3）など）が示されているのは、その作者の作品数を表す。また、選者が分かる場合は、末尾にカッコ付で選者名を表記している（（井上菁城選）など）。
- ⑤ 「写真類」欄は、写真の他に書道、絵画（洋画、日本画、素描等）、まんが（マンガ）などを含むものとしている。「写真類」では、分類にもとづいた列記を重視しており、とくに説明が必要と思われる箇所を除いて作品名は記載していない。
- ⑥ 「創作」欄は、小説の他に童話、戯曲、劇などを含むものとしている。
- ⑦ 「編集後記」欄には、各号の表記名（「あとがき」、「雑記」など）と、作者名（（泰）、（耕）など）を記載している（基本的に、実物の表記をそのまま使用）。号数によって「編集後記」にあたるものがない場合には、「編集後記なし」と表記している。
- ⑧ 「その他」欄には、基本的に上記③～⑦に当てはまらないもの（「原稿募集」、「受贈誌」など）や、編集委員の企画によるもの（『製鉄文化』創作評）などを記載している。
- ⑨ 上記の期間（1949年4月～2002年3月）に発行された『製鉄文化』の中で、106号、108～110号、114～116号の7冊分については、北九州文化運動研究会では収集できておらず、未見であるため、ひとまず欠号とした。

- ⑩ ページ数の中の「表 2」、「表 3」、「表 4」などの表記は、それぞれ「表紙裏」、「裏表紙裏」、「裏表紙」を表している。
- ⑪ 実物の雑誌の中にはページ数の記載がない箇所もあり、その場合は「挿入ページ」とみなした上で、前ページにさかのぼり「○-1」のような形で表記した。例えば、前ページが雑誌の 1 ページ目であれば、挿入ページは「1-1」「1-1~2」などと表記、また前ページが表紙にあたる場合は「0-1」「0-1~2」のように表記している。
- ⑫ 実物の雑誌の中で旧漢字が使用されている作品名や作者名については、分かりやすさに配慮して、基本的には新漢字に改めた（例えば、歸→帰／淺→浅／國→国／實→実／邊→辺、など）。また、「製鐵」の「鐵」についても、①に示した雑誌の分析・検討という目的に重きをおいたことから、できるだけ文字を統一しておきたいと考えたため、「鐵」の字が使われていることの意味を汲み取りつつも、基本的に「鉄」の字に統一させていただいた。